

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	豊岡市立五荘小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	4	4	2	23	29
児童数	104	127	109	115	127	122	5	709	

研究の概要

1. 研究主題

子どもたちの主体的な学びを支える授業の創造 ~一人一人の個性を生かした指導の工夫と改善~
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数(子供の理解度に差が出やすい教科であるため)
------------------------------

(2) 年次ごとの計画

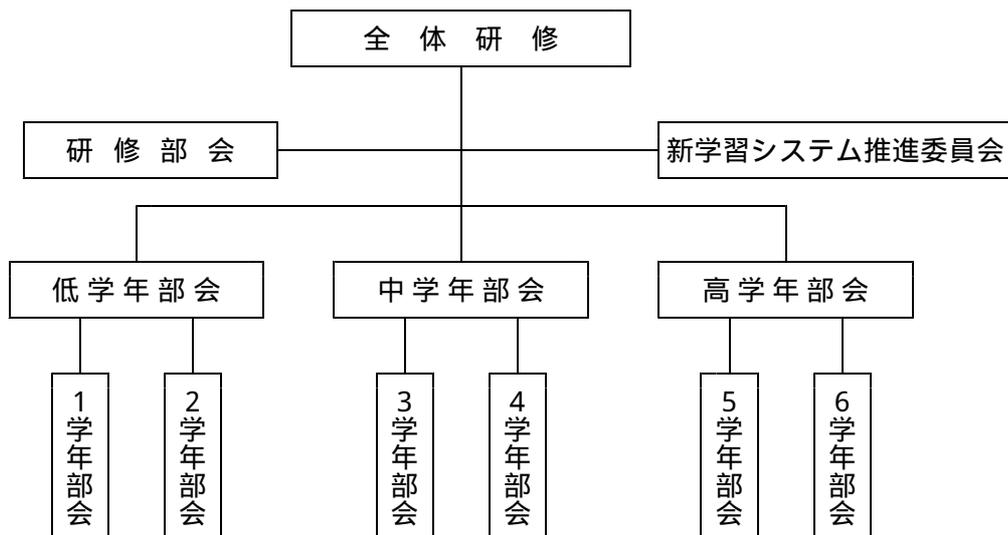
平成 14 年度	<p><b>テーマ</b> 個に応じた指導方法・指導体制の工夫と改善についての研究と実践を行う。</p> <p><b>研究の見通し(仮説)</b> 個に応じた指導方法・体制を充実すれば、基礎基本が定着がするとともに児童の学習意欲が高まり、「確かな学力」の基礎が培われる。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力の把握と詳細な分析(全国的な数値との比較)</li> <li>・少人数授業(ハーフサイズの学習集団等)や個に応じた指導のための多様な指導体制についての研究と実践</li> <li>・「ふりがえりカード」による自己評価や相互評価を生かした指導方法の工夫</li> <li>・TT指導、少人数指導における学習内容と授業時数を明確にした単元指導計画の作成</li> <li>・チャレンジタイムの有効活用(15分間計算練習)</li> <li>・学習到達状況の把握と補充学習の実施</li> </ul>
----------------	--

平成 15 年度	<p><b>テーマ</b> 1年次の研究・実践の成果を踏まえ、発展的な学習の教材開発と評価を生かした指導の改善についての研究と実践を行う。</p> <p><b>研究の見通し</b> 児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな学習教材の開発と評価を生かした指導方法の改善によって「確かな学力」を定着させることができる。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた学習教材の開発と実践研究</li> <li>・実生活と結びつけたり、既習事項を生かして見方・考え方を深める発展的な学習教材の開発。</li> <li>・課題選択学習・コース選択学習など、単元の特質や児童の実態に応じた効果的な少人数授業の推進</li> <li>・TT指導、少人数指導等における単元指導計画の見直しと拡充</li> <li>・個々の児童の学習状況把握に関する研究</li> </ul>
----------------	---

- ・「ふりかえりカード」による自己評価や相互評価を生かした指導方法の工夫（2年次研究）
- ・形成的評価を生かした応用的な学習や基礎的な学習の推進
- ・観点別評価規準を明確にした指導と評価の一体化
- ・計算等の技能向上を目指したチャレンジタイムの実施

平成16年度	<p>テーマ 個に応じた教材開発、個に応じた指導体制の改善、及び学力評価を生かした指導方法の改善という3つの取り組みを一体として行う。</p> <p>研究の見通し 学習教材の開発、指導体制の確立及び評価を生かした指導方法の改善という3つの取り組みを一体として行うことにより、個々の児童の学習意欲を高めるとともに、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育み、学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法  <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた学習教材の開発と実践の総括的推進</li> <li>・実生活と結びつけたり、既習事項を生かして見方・考え方を深める教材開発と実践の総括的推進</li> <li>・子どもたちのニーズに応じたコース別学習・課題選択学習・ハーフサイズ学習等の少人数指導の総括的推進</li> <li>・TT指導、少人数指導等における単元指導計画に基づいた指導と改良</li> <li>・形成的評価を生かした発展的・補充的な学習教材の開発と実践</li> <li>・観点別評価規準を明確にした指導と評価の一体化</li> <li>・個々の児童の学習状況を把握するための学力診断の定期的な実施とそれを生かした指導の実践</li> <li>・「ふりかえりカード」による自己評価や相互評価を生かした指導方法の工夫（3年次研究）</li> <li>・計算等の技能の向上を目指したチャレンジタイムの実施</li> <li>・3年間の成果と課題の公表と、討議を深め研究の一層の充実を図るための研究会の開催</li> </ul> </p>
--------	---

(3) 研究推進体制



昨年度は、「授業研究部」「評価研究部」「学習教材研究部」の3つの部会を配置し取り組んだが、本年度は、実際の授業研究と直接結びつけて研究を進めるため、各学年を基本的な研究母体として配置した。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

全学年が指導形態や教材を工夫した授業研究を行い、確かな学力をつける授業づくり、個々の思いを生き生きと表現し合う授業づくり、課題を持たせ解決を支援する授業づくりなど、教師の授業向上への意識改革が図られた。  
 課題選択学習、コース選択学習、ハーフサイズでの学習等、少人数指導においては、発表しやすい、集中できる、授業がわかりやすい等子どもたちからの肯定的な意見が多く聞かれている。

児童アンケートの結果

	3・4年	5・6年
学習内容がよく分かりやる気が出た	48%	35%
多くの先生とふれあえよかった	24%	30%
気持ちが引き締まった	19%	24%
意欲的に学習できた	設問なし	21%
発表や質問がしやすくなった	設問なし	18%
もっと多くしてほしい・今のままでよい	93%	84%

- ・昨年と比べ、「学習内容がよく分かり、やる気が出た」と、分かる喜びを表す児童が3・4年で3%(昨年45%)、5・6年で9%(昨年26%)増えている。一方で多くの先生とふれあえることを良かったという理由にする子は少なくなっており、このことから、TT指導や少人数指導は子どもたちにとって価値ある学びを保障していると考えられる。
- ・上記のアンケートの記述(3、4年)では、TTや少人数学習はいつもより静かで集中しやすく、発表や質問がしやすいとしている児童が多い。また、「算数が得意になった」、「成績が伸びた」、「どんどん学習を進めたい」と自信をつけてきている様子も書いている。

TT指導、課題選択学習、コース選択学習など、単元の特質や児童の実態に応じた学習形態を工夫し、子どもたちのニーズに応じた学習指導が可能になった。  
 様々な指導形態を検討する中で、学級間の壁が取り除かれ学年としてのまとまりが高まった。

「計算のたしかめ」の実施によって、子どもたちの実態と課題が把握でき、チャレンジタイムでの課題づくりや日常の算数の授業での配慮などに役立てることができた。

チャレンジタイムでのスキル学習の実施によって、計算技能に関しては定着がみられるようになってきた。

教科担任制は、開かれた学級づくりを一層促進してきた。児童の多面的理解が行われ、より一層協働体制が整ってきた。

教科担任制により、より深い教材研究ができ、子どもたちの興味・関心に応じた教材や教具の開発がしやすくなった。

2. 今後の課題

単元の学習の進め方(重点の置き方)でコースを選ぶコース選択学習、興味や関心、学習の進み具合等で課題を選ぶ課題選択学習、学級を目的に応じて2つに分けて学習するハーフサイズでの学習等の少人数指導をさらに充実させ、一人一人の子どもたちが学ぶ喜びを感じながら主体的に学習に取り組み、「学力」をのばしていくことのできる授業の創造。

子どもたちが自らの力で自分に合ったコースや課題を選択できるようにするための自己評価のあり方の研究。

本校で作成した学力診断「計算のたしかめ」の定期的な実施と、それによる子どもたちの基礎学力の継続的な実態把握。また、そこで得られたデータを基にした基礎学力定着に向けた日々の取り組みの充実。

「単元指導計画」(単元ごとの指導形態、指導内容、指導時数等について作成)に基づいた実践と「単元指導計画」の改善。

「指導に生かす評価」として、各単元における形成的評価についてさらに工夫改善を図り、指導に生かしていく必要がある。

補充的な学習教材や発展的な学習教材の開発と実践の充実。

学力の達成状況を的確に把握し、個に応じた指導を徹底し、基礎・基本の定着を図るには、現有の教員数では限界がある。次年度、システムの拡充を目指した人員の増員を要望する。

## 学力等把握のための学校としての取組

- ・本年度、児童の計算技能の定着度を知るための「計算のたしかめ」を各学年ごとに作成し、11月に全校で実施した。実施時間は45分。なお、今後も各学期に1回は「計算のたしかめ」を行い、個々の児童の実態を把握し、今後の指導に生かす予定である。
- ・1年に1回の学力調査（CRT）を2月に全学年で実施。本校の児童の学力の実態を全国的な数値とも比較し、本校の課題を明らかにする目的で行っている。また、算数の各領域ごとの定着度にも着目し、授業改善を図る目的もある。
- ・児童、保護者、教員への学力向上フロンティアスクールとしての取り組みについてのアンケートを実施している。それぞれの立場での意識や要望を明らかにし、実践に役立てるとともに、学校と家庭が連携した学力向上の取り組みを進めることを目的としている。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年2月21日(土)に、フロンティア事業としての授業参観日を設け、授業参観の後、保護者説明会及び講演会を実施。
- ・平成16年11月26日(金)に本校にて研究会を実施する予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                      家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有                      無